

令和7年度第1回仙台市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 会議録

- 1 日 時 令和7年6月11日(水) 15:05 ～ 16:05
- 2 会 場 フォレスト仙台 2階 第6会議室
- 3 委 員 委員数 15 名 (出席委員 14 名 欠席委員 1 名)
 - (1) 出席委員 遠藤富美恵委員、金子享平委員、菊地史朗委員、佐藤富美子委員、瀬戸理音委員、高橋香子委員、高橋千枝委員、玉上智恵美委員、丹野由紀委員、千葉享委員、中條めぐみ委員、野崎義和委員、藤田毅委員、山本信委員
 - (2) 欠席委員 藤原幾磨委員
- 4 会議録署名委員 遠藤富美恵委員、金子享平委員
- 5 議 事
 - (1) 報告事項
 - ① 児童虐待の防止等に関する法律第13条の5による報告
 - ② 措置・里親審査部会の審議状況の報告
 - ③ 保育所等認可審査部会の審議状況の報告
 - ④ こども権利擁護部会の審議状況の報告
 - ⑤ 西公園への屋内遊び場の整備について
 - (2) 協議事項
 - ① 令和7年度の審議スケジュールについて

議事要旨

- 1 開 会
- 2 こども若者局次長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 専門分科会長の選出
委員の互選により、山本信委員を専門分科会長に選出。
- 6 専門分科会副会長の指名
山本専門分科会長より、菊地史朗委員を専門分科会副会長に指名。
- 7 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 児童虐待の防止等に関する法律第13条の5による報告
資料1に基づき、相談指導課長より説明

(質疑応答) なし

② 措置・里親審査部会の審議状況の報告

資料2に基づき、相談指導課長より説明

(質疑応答) なし

③ 保育所等認可審査部会の審議状況の報告

資料3・資料3別紙に基づき、幼保企画課長より説明

千葉委員 資料3別紙に関して乳児等通園支援事業の定員数がそれぞれ異なっているが、その理由を教えてください。また、小規模保育事業がA、Bと分類されているように乳児等通園支援事業にも分類があると思われる。乳児等通園支援事業の分類についても教えてください。

幼保企画課長 乳児等通園支援事業の定員については、定員が何人までという法律上の規定はない。考え方としては条例等で定めている0歳児を預かる場合の必要な部屋の面積や保育士の数などを勘案して、施設側で対応できる人数を「定員」として示しているため、施設毎に定員数が異なっている。

乳児等通園支援事業の類型については、「余裕活用型」と「一般型」の2つの類型がある。「余裕活用型」は、保育施設等において利用児童が定員に達していない場合に定員の範囲内で受け入れる方法である。そのため、保育施設等が受け入れている児童と乳児等通園支援事業として受け入れている児童の人数の合計が、当該保育施設等の定員を超えることはできない。一方で、「一般型」は、専用スペースを設けるなどの方法により、当該保育施設等の定員とかかわりなく受け入れる方法である。

④ こども権利擁護部会の審議状況の報告

資料4に基づき、こども家庭保健課子育て安心担当課長より説明

(質疑応答) なし

⑤ 西公園への屋内遊び場の整備について

資料5に基づき、子育て応援都市推進課長より説明

(質疑応答)

丹野委員 市民の声を参考にするというのは、どのような手法をとるのか。保護者だけでなく、市民の皆様にもアンケートを行って、ぜひ市民の皆様が望む施設になってほしいと心から願っている。

子育て応援都市推進課長 現在、屋内遊び場の主な利用者として想定される乳幼児から小学生の保護者向けにWebアンケートを実施しているところであるが、今後は、市民の方が参加可能なシンポジウムの開催や、計画案に対するパブリックコメントの実施などを考えている。

今後もさまざまな場面を通じて、保護者や子ども、市民の声を幅広く取り込んでまいりたいと考えている。

中條委員 現時点で施設整備全体にかかる予算はどれくらいで考えているのか。

子育て応援都市推進課長 施設整備に要する費用については、基本計画の策定を通じて、施設の

規模や機能、内容を決定していく中で、見通しをつけてまいりたいと考えている。したがって、現時点では明確な予算のお示しをすることは難しい。

瀬戸委員 現在行っている Web アンケートの対象として、小学生以下の親御さんを設定した理由を教えてください。

子育て応援都市推進課長 屋内遊び場に関しては、山形県や福島県といった近隣に先行事例として整備の進んでいる施設があり、そういった施設の対象年齢も参考にしながら、屋内空間で天候に関わらず、親子が遊べる施設を考えた場合に、主に小学生以下のこどもをメインターゲットにしていくこととしたもの。そのうえで、メインターゲットである小学生の保護者の考えを伺うことを目的としてアンケートを実施したものである。

瀬戸委員 現在のメインターゲットは小学生以下のこどもとのことだが、今後、施設整備の取組が進むなかで、中高生への利用拡大の可能性もあるか。

子育て応援都市推進課長 施設として、実際の遊びの部分に関しては、先ほど申し上げたとおり小学生以下のこどもがメインになるものと考えている。

一方で、施設のコンセプトである、社会全体で子育てを支えていくという観点からも、子育て世帯に限らず多くの人が訪れることができる施設にしていまいりたいと考えている。その中には、大人のほか中高生も入ってくるものと考えている。

また屋内の遊び以外にも自然を使った体験や学習など、周辺施設と連携したプログラムの実施などが考えられるが、今回いただいたご意見も踏まえ、検討してまいりたい。

野崎委員 今回実施している Web アンケートには、特別支援学校のこどもの保護者は入っているか。

子育て応援都市推進課長 今回のアンケートについては、広くこどもの保護者を対象としており、学校の保護者向けのアプリを利用した通知なども行い、多くの回答が寄せられているところである。回答者の制限というのはかけていないアンケートである。

野崎委員 説明資料においても「インクルーシブ遊具」と記載されており、どんなこどもや家庭でも利用できる施設・公園になるとよいと思う。

広くアンケートを行うということも素晴らしいことと思うが、その際に気を付けないといけないのは、多数意見のみに目を向けてしまうと、特別な支援や配慮が必要な家庭がどうしても少数になってしまったり、声が届かなかったり、見落とされたりしてしまう場合がある。意見を大括りにしてしまったことにより、社会的に少数派とされる人たちの貴重な声を見落とすことのないように、受け止めていっていただきたいと思う。

今後のスケジュールについても有識者の意見を取り入れることとしているが、幼児教育や児童発達のほか、ぜひ視覚障害や聴覚障害といった様々な障害領域に関する意見も取り入れていただきたい。こどもでなくとも、障害の当事者から見えてくる多数派が気づかないようなバリアについても、設計の段階から声を聴いていただけると良いと思う。

藤田委員 仙台市における屋内遊び場の整備事業はこの西公園の1か所のみということではないか。仙台は大都市なので、各区に1か所ずつあってもよいのではないかと思う。私自身、東北6県によく足を運ぶのだが、仙台ではこのような施設の整備が遅れていると感じている。各区に1か所ずつ整備するような、そんな計画があってもいいのではないか、というのが私の感想である。

子育て応援都市推進課長 大型の屋内遊び場の整備事業はここ1か所であるが、仙台市ではこれまで屋内における遊びの空間として、各区に、乳幼児向けの施設として「のびすく」のほか、おおむね小学校校区1区につき1つの児童館、そのほか各公園の整備といった遊び環境の充実にさまざま取り組んできたところである。そのほか、プレーパーク活動の普及なども進めているところであり、西公園の屋内遊び場を一つの大きなテーマとしつつ、引き続き遊びの充実を図ってまいりたいと考えている。現状としては、西公園の屋内遊び場の早期整備を目指し、仙台市全域からご利用いただけるような環境整備・運営を目指してまいりたい。

山本専門分科会長 私自身、3児の父として、施設ができる頃にいちばん下の子が利用できたらいいなと思っている。こういう施設が欲しいという声を一市民としても届けていくことができればと考えている。

(2) 協議事項

① 令和7年度の審議スケジュールについて

資料6に基づき、総務課長より説明

(質疑応答)

全委員 (異議なし)

山本専門分科会長 それでは、令和7年度の審議スケジュールについては、事務局案の通り進めてまいりたい。最後にこれまでご説明いただいた事項以外について何かあるか。なければ、以上で本日の議事を終了する。

8 閉 会